

---

日本のユネスコスクールから発信！

## ESD推進のためのユネスコスクール岡山宣言(仮称)に託すメッセージ

---

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、「ユネスコスクール世界大会」の一環として行われる第6回ユネスコスクール全国大会（2014年11月8日）の参加者によって採択される「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」に寄せるメッセージを、全国のユネスコスクールや加盟申請中の学校から募集しました。

ESD推進にあたって、またユネスコスクールとしての経験から、「ユネスコスクール岡山宣言（仮称）」に盛り込みたいメッセージを、児童生徒のみなさん、地域の方々、協力者のみなさんの声を参考に、教職員の方々と話し合っておメッセージを作成してください。ユネスコスクールに申請中の皆様も、ESD推進にあたって盛り込みたいメッセージをお寄せください。

メッセージ作成にあたっての視点としては、下記の例をご参考にしてください。

視点の例：

- ESD実践の成果として世界に発信したいこと
- ESDで育った子どもたちや変化した地域社会の様子
- ESDを実践してきたなかで、教職員の「気づき」
- 持続可能な社会づくり・その担い手づくりのために  
ユネスコスクールとしてできること、すべきこと
- ユネスコスクール以外の人たちへの呼びかけ
- 世界の仲間たちと一緒に生きていく持続可能な未来とは

以下はこの呼びかけに応じてお寄せいただいたメッセージです。

（メッセージの公開の了承をいただいている学校のみ掲載しています。）



世界には様々な課題があります。ゴミの問題、生態系の変化、戦争・紛争、貧困、砂漠化、森林破壊、温暖化、エネルギー問題…これらは決して単独の課題ではありません。複合的に絡み合い、簡単に解決できない課題ばかりです。地球上で生きる私たち全員がこれらの課題と真摯に向き合ってお取り組む必要があります。先人たちが残してくださったすみよい世の中を次の世代へと引き継ぐのは、現在を生きる私たちの使命ではないでしょうか。世界中が手を取り合ってお持続可能な社会をつくっていきましょう。

奈良市立済美南小学校

ESD は世界を変えるだろうか。  
そう問う前に、別の問いを立ててみよう。

ESD というビジョンを手がかりに、わたしたちは、教育という営みそのものを変えることができるだろうか。

その問いへの探求を通して、教育という営み全体を ESD と呼べるまでにたかめることができたとき、ESD という言葉はその役割を終えるだろう。教育とはほんらい、社会と人類とを持続発展させていく源泉だから。

友よ、その源泉をまず、みずからのうちに抱こう。世界を変える力の源は、ひとりの人間の自由な精神の発露にあるのだから。

特定非営利活動法人 横浜シュタイナー学園

地域と共に「アルミ缶で車椅子を！」活動を 19 年間実践。福祉施設や被災地に 106 台の車椅子を寄贈できました。またリサイクルで地球温暖化をふせごとと環境学習へとつなげています！

Think Globally, Act Locally！！

奈良市立月ヶ瀬中学校

国々のあらゆる格差をうめるのは教育だけです。人一人ひとりが平等に扱われる命を持てるように教育を世界の隅々まで普及させましょう！

兵庫県立北須磨高等学校

ESD の実践を通して、子どもたちが自分たちが思い描く未来にしていくために、「一人一人が行動を起こさなくてはいけない」と考え、未来のよりよい社会づくりに積極的に貢献しようとしています。

気仙沼市立唐桑中学校

自ら調べ、考え、動き、伝える 一知のつながりが世界を変える。各人、各国がその個性を発揮しながら協力して、地球上のすべての人類、動植物が平和に幸せに暮らせる新しいエコシステム(生態系)をつくっていきましょう。

渋谷教育学園渋谷中学高等学校

どの国の人も自分と同じ人間だと実感することが平和につながります！

未来を創る子供たちに国際交流を通して良質な原体験を！

多摩市立南鶴牧小学校

平和になること、それはみんなが笑顔になること

そのために、わたしたち一人一人が自分たちにできることを考えて行動し、  
笑顔でいっぱいの世界にしたい！

松山市立新玉小学校

人づくりは街づくり、ESD で未来づくり。

子どもたちの未来に責任をもち、今できる最大の努力を！

多摩市立東愛宕中学校

本校では、東日本大震災後の平成24年度から実践している「海拔表示プロジェクト」に、今年度も継続して取り組んでいます。この取組を通して、震災前の故郷の様子を忘れず、震災から得た教訓を風化させないためにはどんなことが必要なのかを考えさせ、これからの気仙沼・小原木地区の将来を担う子どもたちを育てたいと思っています。

また、今年度の生徒会は、「ありがとう～このつながりをこれからも～」をテーマに活動しています。これまで支えていただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、関わった人達とのつながりを後世に伝えるためにも、海拔表示プロジェクトを柱としたESDに取り組んでいきたいと思ひます。

気仙沼市立小原木中学校

ESD でひろがる人と人との和

小学校(東京都)

将来、唐桑地区の形成者となる子どもたちが、ワクワク、ドキドキしながら地域のよさを見つめ、交流ができる場を積極的につくっていききたい。

そこで学んだことを、地域を大事にしていこうとする意欲や態度につなげていけば、持続発展のエネルギーになるのではないのでしょうか。

気仙沼市立唐桑幼稚園

私たちは、世界自然遺産がある地域の高校生として、様々な学習を続けています。「知床自然体験学習」、エゾシカによる森林被害を防ぐために樹木に防鹿ネットを巻く作業、本校だけの学校設定科目「知床自然概論」では、外来種問題や野生動物との共生、河川の調査等の講義・実習を重ねた後、研究発表会を行い発信する力を養っています。

私たちは、これからも、これらの学習活動を通して、より一層、自然環境の保全・野生動物との共生の模範となるような行動を、次世代につなげていきます。

北海道斜里高等学校

三重大学は、ASPUnivNet の一員としてユネスコスクールへの加盟支援を行うと共に、三重県内のユネスコスクールの拠点として教育の質の向上について助言し、ESDを推進していきます。

また、産官学民との協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」を形成し、地域で活躍する人材を育成します。

そして、地域に根ざし、国際的な視点を持ったグローバル人材育成のために、海外、特にアジア・太平洋諸国との連携を図ります。

国立大学法人 三重大学

①生命の尊厳を将来の世代に引き継ぎます。

私達は東日本大震災の被災地との相互訪問を継続します。被災者の現実に学び、その思いを広く伝えていくための力になります。

②持続可能な人間同士の関係を目指します。

私達は、「自分がされて嬉しいことを人にする」「自分がされて嫌な事は人にしない」を、実践します。学校内に留まらず、学校として地域ボランティアに取り組みます。

大阪府立北摂つばさ高等学校

本校のルーツでもある「閑谷学校」は日本で最も古い庶民教育のための学校です。私たちはそこで教えられていた「論語」を創学から343年経った今日でも学んでいたりと、「閑谷学校」を訪れる観光客の方にボランティアガイドを行っていたりします。

私たちがこれらのESDの活動を行っていくうえで大切だと思う言葉は「伝える」という言葉です。私たちは「論語」を今でも実践しており、遠い先輩方から受け継いできた伝統を途絶えることなく、次の世代へ、そしてまた次の世代へと、「閑谷精神」を継承していきたいです。私たちの代で「論語」学習を止めてしまうと、後輩たちは「論語」を学べなくなります。「論語」を学んだ和気閑谷高校の生徒たちは皆、論語を何らかの形で普段の学校生活の中に活かし実践しています。皆さんも、自分たちの学校の先輩などから受け継いできた伝統や文化があると思います。それらを自分たちの後輩へと伝えていってほしいと思います。

岡山県立和気閑谷高等学校

子供たちの学びの中にESDの考えを取り入れることによって、学びは3つのつながりをもつ。そのつながりの中で、学びは価値を増し、子供たちの心の中に生き続け、持続可能な未来を創造する力となっていく。

●子供たちの学びの中に、「人とのつながり」を

私とあなた 私と学校のみんな 私と地域のみんな 私と他の地域のみんな  
私と世界のみんなへと つながっていく。

だから、私は、見えないあなたと励まし合い、支え合える存在であるという尊さに気づき、何か行動したくなる。

●子供たちの学びの中に、「空間とのつながり」を

ここからそこへ 教室から校庭へ 校庭から地域へ 地域から私の国へ  
私の国からあなたの国へ そして世界へ 地球へ 私の世界は広がっていく。

だから、私は、どこの場所にも かけがえのない宝が息づいているということに気づき、何か行動したくなる。

●子供たちの学びの中に、「時間とのつながり」を

今と明日とのつながり 今と過去とのつながり 今と近い未来とのつながり  
今と遠い未来とのつながり 私の今は過去や未来と つながっていく。

だから、私は、この大きな時間の流れの中で、大切な責任を負っているということに気づき、何か行動したくなる。

稲城市立稲城第二小学校

“Do what you can”

本校の生徒は、ESDの活動を通して、自分たちの行動が、日本国内のみならず、世界の人々の理解や協力につながるのだということを実感しています。たとえ身近な小さな取り組みでも、今自分たちのできることを行動に移し、熱意を持って活動すれば、人々の心に声が届き、世界の持続発展のために役立つ事が出来ます。中学生や高校生として身近なことから、何か「自分たちができること」がないかを探してみましょう。

国際学院中学校高等学校

誰もが願っている、「よりよく生きる」「素敵な未来を創る」ために、ESD を継続して取り組んでいくことが大切である。

気仙沼市立階上中学校

かしこく たくましく やさしく生き、思いっきり学ぶ子は  
人とつながり、自然とつながり、そして未来へとつながる！  
世界中の人々に響かせよう！  
持続可能な未来を創りゆく 僕らの希望を。  
共に感じ、共に学び、共に生きる 僕らの誓いを。

気仙沼市立面瀬小学校

徳島科学技術高校は、ものづくりを通じた人材育成から、持続可能な社会の発展と地域貢献を目指します。そして、愛する故郷徳島が持つ地域の力と宝を、人と人とのつながりの中から探し、磨き、次の世代に継承していきます。

科技高発「Relfie プロジェクト」は、私とあなたと地域の未来を写します！

徳島県立徳島科学技術高等学校

子供たちも含め、現代を生きる私たちが「持続可能な社会づくりの担い手」となるためには、一人一人がヒーローや伝説になる必要はない。身近なところから課題を見つけ、それを解決する方法を問いつけ、行動に移すことが大切である。そして、一人では解決できない課題に対しては「つながり」を大切にして、仲間と協同する姿勢が大切である。相手の考えに耳を傾け尊重すること、よりよい解決策にたどり着けると信じている。

私たちは、身近な課題を自分事として捉え向き合うところからスタートし、いずれは異なる文化、価値観をもつ相手とも協同して地球規模の課題にも向き合っていきたい。戦争や争い、貧困のある未来ではなく、平和に共生し資源を分け合う地球にしたい。

持続可能な社会をつくるために必要な材料は発想である。持続可能な社会をつくるために必要な道具は言葉である。

東浦町立緒川小学校

「世界中の人が 心を結び 助け合い 笑顔いっぱいの  
平和で 幸せな社会を築いていこう。  
一人一人のかけがえのない命が きらめき 輝く世界を  
つくっていききたい。  
地球は 全ての命を育み 慈しみながら 生きている  
この地球を守り、素晴らしい自然を、資源を 次世代へと  
つないでいこう。」

小学校(愛媛県)

世界の人たちと仲よく持続可能な未来を築くため、私たちは次のことを宣言します。

- 1 私たちは、世界の様々な人々とより仲よくなるために、日本の文化や他の国の文化を尊重します。
- 2 私たちは、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、自分の頭でもう一度考え、それが正しい情報なのかどうかを自分で判断できるようにします。
- 3 私たちは、相手のことをより理解するために、そのパスポートとなる英語をしっかりと勉強します。
- 4 私たちは、いろいろな人との「つながり」「かかわり」を大切にしていきます。そして自分の地域のことをよく学び、地域のよさを積極的に発信します。
- 5 私たちは、世界で今も続いている戦争や紛争をなくすために、身近な争いからなくしていきます。そのためにも、相手の立場に立った言動を日常化します。

岡山市立京山中学校

(掲載順不同)